

ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

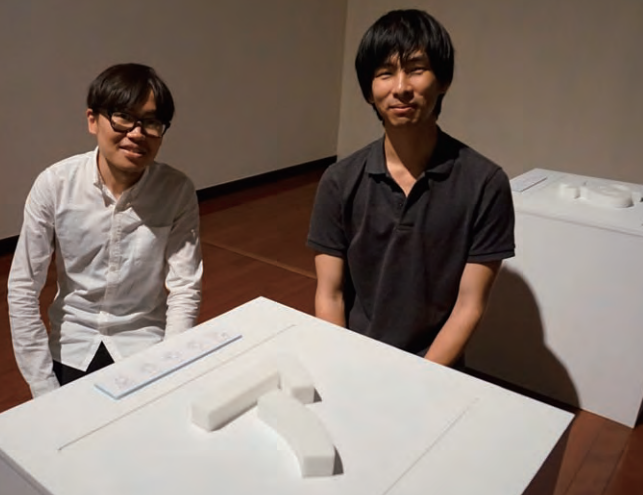
2016初秋
vol. 78



緒方壽人さん



坪倉輝明さん



右：穴井祐樹さん 左：渡島健太さん
「魔法の美術館」展 出展作家より



左：藤元翔平さん 右：坂本隆成さん

多様なアートが育むもの

巻頭言

この夏、熊本市現代美術館では、最新テクノロジーを駆使した双方向的（インタラクティブ）で参加型アートと言われる「魔法の美術館」展が開催され、連日千人を超える来場者でにぎわいました。このデジタルアートによる展覧会は、主として子供を対象としたものですが、想像力を大いに刺激し、大人にも十分に楽しめる企画となりました。この展覧会は3年前に開催され大変好評でしたが、今回は新しいバージョンの「かえってきた！魔法の美術館」展と装いを新たにしている再登場でした。

またこの夏、当館では佐渡裕が率いる「スーパークイズ・オーケストラ」のコンサートを始めとして、市街地を舞台にしたジャズフェスティバル「JAZZ OPEN 2016」、「上通演劇まつり」、「夏のこども映画まつり」等、県と市の行政の領域を超えた密度の高い共催による、実に多様な事業が開催されてきました。これは、子供たちにとって美術、音楽、演劇等の芸術とは何かを、あらためて考えさせる機会となりました。

海外の例でもよく言われるのが、芸術は、スポーツや数学、科学等のほとんどの分野とつながっていること。子供たちが芸術の活動に関わることで、学校で読解力、認識力、言葉による表現力の点数が上がるのが、イギリスやカナダの調査で証明されています。また集中力、モチベーション、自信を促し、チームワークを育むこともあきらかになっていきます。今世紀になってアメリカ政府は芸術を公共教育の核になると見なして連邦補助金を出し、ニューヨークのブルームバーグ前市長は、教育改革の中で芸術教育に優先権を与え、都市の振興を図りました。

変化の激しい今の時代、美術、演劇、音楽等の多様な芸術創造に関わり、鑑賞することは、これまで以上に重要性を増しています。若い人たちにとって多様なアートに触れることは、想像力や自己表現力を高め、グローバルに人とのつながりを強める好機となることでしょう。

熊本市現代美術館館長 桜井武

NEXT EXHIBITION

2016.10.8[土]—2017.1.9[月・祝]

ジブリの立体建造物展

- 部分を見れば、全体が見える。 -

Contemporary Art Museum, Kumamoto

CAMK
www.camk.or.jp

MUSEUM INFORMATION

2016MAY-SEP

かえってきた！魔法の美術館展

2016.6.25-9.19

「かえってきた！」

魔法の美術館」展開幕

2013年に開催した、最新の技術を駆使したメディア・アートの展覧会「魔法の美術館」展。「もう一度見たい」とのリクエストを多数いただき、3年ぶりの再開催となりました。



た。作品は前回の展示から全て入れ替え、12作家17作品を紹介しました。展覧会のオープンした土日には、あわせて3000人を超すお客さまが来館されました。熊本地震後に家族で安心しておでかけできる催しとして、お楽しみいただけたのであれば幸いです。(A.S.)

2016.6.25

アーティスト・トーク



「魔法の美術館」展の出品作家の中から、熊本出身の緒方壽人さんと藤元翔平さんにお話をいただきました。それぞれ takuram とチームラボという人

気のデザイングループで活躍中の二人ですが、本展のために制作いただいた新作のお話を中心に、ともに共通する出身校であるIAMAS、熊本の学生時代、現在手掛けているお仕事など、幅広く語っていただきました。(A.S.)

新しい技術が美術作品として身近な娯楽や他の分野に応用され、様々に変わっていくことを楽しみにしています。未来を感じるお話面白かったです！(アンケートより)

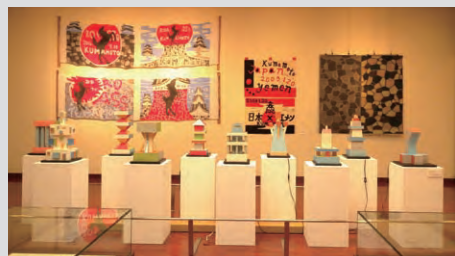
【参加人数30人】

井手宣通記念ギャラリー

2016.7.16-9.18

日比野克彦 明後日朝顔プロジェクト in 熊本10周年記念展

2007年に開催した企画展「日比野克彦 HIGOB Y HIBINO」



をきっかけとして、日比野克彦さんのアートプロジェクト「明後日朝顔プロジェクト」に参加し、当館は今年で継続参加10周年を迎

えました。

この節目を記念して、「明後日朝顔プロジェクト」関連資料や、「HIGOB Y HIBINO」展を通じて誕生した熊本の伝統工芸とのコラボレーション

作品の数々、熊本が発祥の地である「マツチフラッグ」(サツカーを応援するアートプロジェクト、2009年より展開)の初公開の試作(日比野克彦作&ひびのこづえ作)などの特集展示を行い、この10年間の日比野さんと熊本市民とのドラマチックな文化交流の軌跡を紹介しつつ、熊本に元気をプラスすることを目指しました。

会場は、全国の明後日朝顔参加館

れた時、日比野さんは親しい人たちを心配して地震発生から約1週間後には熊本入りし、商店街や避難所を



訪ねて回りました。さらに6月、7月と、これまですでに4回来熊。色々な人の意見に耳を傾けながら、アトにできることを模索しています。今回、太宰府の皆さんの協力を得て、下通アーケードで開催されたマツチフラッグ・ワークショップ。フラッグのデザインはこれまでになく細かい石垣で埋め尽くされ、道行く多くの方々が駆けつけたロアツソの選手が一緒になって、フラッグを制作してくれました。皆さんの想いのこもった4枚のフラッグは、「日比野克彦明後日朝顔プロジェクトin熊本10周年記念展」の会場に展示されました。(C.I.)

【参加人数200人】

明後日新聞にて
明後日新聞社文化事業部が母体
となる「明後日朝顔プロジェクト」
であり、その様子を中継して放送している
明後日新聞にて。2007年に新設された
朝顔プロジェクト。現在でも毎月発行されています。
最新号は今年6月の184号です。明後日新聞は
これまで、水戸、金沢、代田でも期間限定で
発行してきました。熊本では、HIGOB Y HIBINO
の展覧会にあわせて、6号の朝顔が市長有志に
お集まりいただき、大くま川(2号の朝顔の
作業)に展示しました。熊本朝顔築城40周年に
あわせて、朝顔プロジェクトを
展開しました。おかげで10年間にわたって
震災を経て、現在の熊本城の姿を見
ることができ、市民の心を一つにする
という明後日朝顔プロジェクトの
活動が実現していると思っております。

HIBINO
2016.9.11

2016.6.2-3

命の花壇植え替え



熊本支援学
校高等部農芸
班の皆さんに
よる、花壇植え
替え作業を行
いました。今回
の花は、マリ
ゴールド、ウモ
ウケイトウ、コ
スモス、ペチュニアです。好天にも
恵まれ、2日間の作業を無事に完了
し、夏らしい花壇ができあがりまし
た。(H・Ts)

2016.6.26

プラネタリウム番組上映会

「くまモンのほしぞら おもちゃ箱」

休館中の熊本市立熊本博物館との
共催で、オリジナルプラネタリウム
番組の上映会が行われました。番組
上映前には、熊本博物館の天文担当
の学芸員による熊本の星空の解説も
あり、会場はたくさん親子連れで
にぎわいました。(A・S)

【参加人数300人】

2016.7.23-24

「子どもたちへ笑顔を レゴブロックで遊ぼう!!」



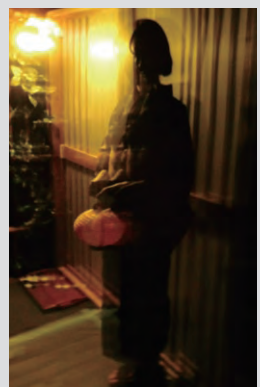
夏休みが始まってすぐの2日間、
熊本市子ども支援課との共催による
イベント「子どもたちへ笑顔をレ
ゴブロックで遊ぼう!!」を開催しま
した。このイベントは、今回の熊本
地震を受けて、LEGO社から熊本
の子どもたちに対する支援の申し出
があったことに伴い、子どもたちに
レゴブロックで自由に遊んでもらえ
るよう熊本市子ども支援課と一緒
に企画・開催したものです。当日はレ
ゴジャパンから3名のスタッフに
お願いいただき、子どもたちと触れ合
いながら、パーツの組立て方などを教
えてもらいました。

レゴブロックが引き出す子どもた
ち1人1人の個性と、子どもたちが
秘めている無限大の創造力を感じる
ことができ、なにより、子どもたち
の楽しそうな笑顔がたくさん見るこ
とができた最高の2日間になりました。
(N・O)

【参加人数2000人】

2016.7.28-8.7

火の国まつり こどもおもしろおばけ屋敷 「うら庭のひみつ」



昨年大好評だった「おばけ屋敷」が、
今年も美術館に登場！今回のテーマ
は「うら庭のひみつ」。会場から漏れ
てくる悲鳴にドキドキしたり、突然
現れるおばけにとび上がった。『全
然怖くなかったよ！』という子から、
しばらく号泣し続けるお子さんまで、
今年も多くの方にお越しいただきま
した。暑い夏も美術館でひんやり
できたかな？(K・O)

【参加人数2566人】

2016.7.21

寺田克也さん 熊本城視察

イラストレーター・マンガ家で、
ゲーム・映画のキャラクターデザイ
ン等でも活躍する寺田克也さん。来
年秋に開催予定の「誉のくまもと」
展(仮称)への参加のため、当館会
場下見と新作構想に向けて熊本城視
察に来てくれました。

梅雨が明けたばかりの晴天と薫風
のなか、藤崎台球場からの球児たち
を応援する声を背景に、熊本城をじっ
くり視察、散策しました。「お城とい
えば、子供のころ見た姫路城です」
という岡山県出身ならではの発言。
各地で訪問したお城の印象をお話し
ながら、熊本城の武者返しの石垣や、
二の丸公園の緑の美しさに注目され
ていました。(H・T)



2016.7.27-8.29

今田淳子「HIGO・ROCK! HIGO・ROCCA!」第2弾 肥後朝顔公開

熊本在住の現代美術家・今田淳
子さんによる肥後六花プロジェクト
「HIGO・ROCK! HIGO・
ROCCA!」の第2弾、肥後朝顔
を公開しました。前作と同様、こ
の作品には、春に一般公募して市民
の皆さんにご寄贈いただいた古着物
が素材の一部として使用されていま
す。(現在は募集終了しています)

今回の作品にも、鈴
皮革の他、ステンドグラ
スや羽根、鏡など、多種
多様な素材が用いられ、
細部をながめる楽しみに
満ちています。花びらの
ふちはひらひらと波打
ち、肥後朝顔ならではの
表情。大きな花びらには、
有明海や南阿蘇が描かれ
ています。夏を感じさせ
る作品として、多くの皆
さんに楽しく鑑賞いた
だけたようです。(H・T)



2016.6.23

詩の朗読会 第149回
テーマ「ファンタジー」

熊本地震のため、4月・5月と休会していた詩の朗読会が、2か月ぶりに開催されました。参加者数を心配していましたが、飛び入りの4名を含む13名の方が参加され、様々な視点と言葉が連鎖した楽しい会となりました！今回のテーマは「ファンタジー」でしたが、地震について触

れられた詩を多くの方が読まれました。(K・O)【参加人数13人】

2016.7.28

詩の朗読会 第150回
テーマ「アルバム」

今回は記念すべき第150回の開催ということもあり、多くの参加者でにぎわいました。今回のテーマは「変身」。自分が名前を持たないとして他人のなかで「私」は変身し続けるといった詩や、言葉の中で変身するしかないといった詩など、アイデンティティの曖昧さや変化についての詩が多く読まれました。

美術館ボランティアCAMKEESの活動紹介
CAMKEESの活動

2016.6.4

CAMK読みがたり第81回
テーマ「ぴちぴちちやぶちやぶ」

6月の読みがたりのテーマは「ぴちぴち ちやぶちやぶ」。絵本「あめがだいすき」や、手遊び「かえるのうた」などをお届けしました。



「あめがだいすき」は、ころんなお友だちの雨が好きな理由が描かれた絵本。雨の日の特別な楽しみ方が伝わってくるお話でした。他にも、いろんなお芋が水の中に「じゃっぽーん！」

会の終わりに、桜井館長から、この「詩の朗読会」は「音の場」でもあるというコメントがありました。今回も、連続とつながる言葉



に詠む方、間をとって迫力たっぷりな詠む方など、まさに「音の場」としての朗読会を改めて感じる会となりました。(A・M)【参加人数15人】

と転がる紙芝居「ころころじゃっぽーん」や、葉っぱに写った写真絵本「みずたまレンズ」をご紹介します。今回の読みがたりはホームギャラリーで開催しましたが、いつもより広いスペースで、子どもたちがお話に合せてジャンプをしたり、のびのびと遊んだりする姿がとても嬉しい光景でした。(Y・M)【参加人数57人】

2016.7.16

CAMK読みがたり第82回
テーマ「もうすぐ夏休み」

7月の読みがたりのテーマは「もうすぐ夏休み」。夏休み前でしたが、たくさんの子もたちが集まってくれました。今回ご紹介した絵本は「おひさまあはは」、「なつのおとずれ」、「はなびドーン」など。手遊び歌では、「ひと一つ、ふた一つ、三ツ矢サイダー」と歌いながら、みんな



でしゅわっしゅわのサイダーになりました。大型絵本「れいぞうこ」は、本物の冷蔵庫を開けるような感覚と言葉のかけ合いが楽しい絵本。絵本の冷蔵庫ならずと開けていても叱られないかな。夏休みが待ち遠しくなるようなおはなし会となりました。(K・O)【参加人数42人】

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・17時より 無料

上映リスト(5/29〜7/31)

5月30日「わたちの都〜ワッゲンオッゲン〜」2012年日本映画 103分

*日本語字幕あり(協力:字幕サークル「おむすび」)

6月6日「くるみ割り人形」2010年イギリス・ハンガリー映画 108分

6月13日「ライラの冒険 黄金の羅針盤」2007年アメリカ映画 113分

6月20日「椿姫」1997年フランス映画 118分

6月27日「バグダッド・カフェ」1987年ドイツ映画 104分

7月4日「夏時間の庭」2008年フランス映画 102分

7月11日「アリス・イン・ミラランド」1998年イギリス映画 83分

7月18日「ひと月の夏」1987年イギリス映画 92分

7月25日「リバー・ランズ・スルー・イット」1992年アメリカ映画 124分

子ども向け上映会

「キヤスパー」「チップとデール」「NHK子どもにんぎょう劇場」などを上映。5/29〜7/31の期間に計17回開催。5月14日以降の毎週土日(9月19日まで)10時半より 無料

2016.7.8

アートバス

芳野小1・2年生

本年度1回目のアートバスは、芳野小学校の1・2年生の皆さん。探検ツアー、「魔法の美術館」展を体験した後、午後はワークショップ「光る絵を描こう」を行いました。黒い紙に蛍光絵の具で、「魔法の美術館」展で見た光の様子や、花火、自分のお気に入りの虫や風景などを、楽しく描画しました。最後に、部屋を暗くしてブラックライトをあけると、あら不思議！皆が描いた絵が闇の中に浮かび上がり「わあ！」と大きな歓声が上がっていました。(A・S)【参加人数20人】



2016.7.9

CAMKピアノコンサート

19回目となるCAMKピアノコンサートを開催しました。当館ピアノボランティアさん7名にご出演いただき、連弾を含む9曲を演奏していただきました。「かえってきたー魔法の美術館」展開催中のため、会場にはお子さんも多く見られ、デイズニメドレーやミュージカル映画「マイフェアレディ」の「踊り明かそう」など、おなじみの愉快な曲を演奏するように聞いていました。また、自作の即興曲、流れるような手の動きの「ロンドニ長調」、力強い「シチリアーノ」や、優しい音色の「星に願いを」「G線上のアリア」など、個性あふれる演奏をご披露いただきました。(H・Ts) 【参加人数40人】



2016.7.23

STREET ART-PLEX KUMAMOTO

Great Composer Memorial Series J.S.バッハ

Memorial Series J.S.バッハ



ストリートアートプレックス Great Composer Memorial Series J.S.バッハの命日を記念したコンサートが開催されました。今回は大人から子どもまで11組が出演。コンサートでは「主よ人の望みの喜びよ」や「アヴェ・マリア」などの名曲が、ピアノやフルート、弦楽器で彩られました。「大フーガ」に自作の歌詞をつけた「頑張ろうよ熊本」では、歌詞の中の「大好き熊本」にそれぞれの人が自分の中の「熊本」を重ねあわせたのではないのでしょうか。今回のゲストは、ピアノリストの吉田秀晃さん。(Y・M) 【参加人数150人】

2016.7.23

STREET ART-PLEX KUMAMOTO

JAZZ OPEN 2016

One for Kumamoto

ストリートアートプレックスのジャズの祭典「JAZZ OPEN」が開催されました。今回は「One for Kumamoto」をキーワードに、熊本地震で失われた人命と、火と水の美しき国「熊本」へ全てのパフォーマンスを捧げ、街中に音楽やアートがある「日常」を取り戻していくことをコンセプトとして掲げました。当館ホームギャラリーでは、「豊田隆博」「ゴッホ」「藤本直子」が2ステージの演奏を繰り上げました。ジャズのスタンダードナンバーなどを、ベテラントリオによる演奏と藤本さんの心安らぐ歌声で、お客様にゆっくりとお楽しみいただきました。(Y・M) 【参加人数200人】



2016.7.29

アートキャラバンくまもと #39

スーパークィッズ・オーケストラ

エル・システマ弦楽四重奏団コンサート



アートを通してこころの復興を推進する、熊本県立劇場のプロジェクト「アートキャラバンくまもと」。今回は当館も共催に加わり、エル・システマ弦楽四重奏団とスーパークィッズ・オーケストラの演奏がホームギャラリーで開催されました。公演は、エル・システマ弦楽四重奏団の演奏からスタート。中米ベネズエラの音楽教育システムを受けた学生たちが、バイオリン、ヴィオラ、チェロで、「カノン」他2曲を豊かなハーモニーで奏でました。

続いて、スーパークィッズ・オーケストラの演奏。世界的指揮者・佐渡裕さんと、全国の小学生・高校生選抜メンバーで組織された弦楽合奏団です。彼らは各地での演奏会や、被災地を毎年訪問する「東北」こころのビタミン「プロジェクト」などを行っています。36人の子ども演奏家たちが勢揃いする光景は、まさに圧巻！クラシックや、「ニューシネマ・パラダイス」のテーマ、「幸せなら手をたたこう」などなど、幅広い曲目で1時間にわたる演奏を佐渡さんのエネルギー溢る指揮とともに披露してくれました。また、スーパークィッズの「第2の先生」も登場して、となりのトトロの「猫バス」のテーマを演奏。リズムののって元気にパフォーマンスする子どもたちに、会場で笑顔が溢れるコンサートとなりました。(Y・M) 【参加人数630人】



「かえってきた!魔法の美術館」展の
来場者は、6万人を超えました。
たくさんのご来場ありがとうございました!



編集後記

念願叶って前回号からオールカラーとなったAKL!全ての写真を鮮やかにご覧いただけるようになったのはもちろん、レイアウトやデザインの上でもアレンジの幅が広がりました。このリニューアルを機に、紙面を読みやすくする工夫をいろいろ試みていますので、よければバックナンバーと見比べてみてください。

編集長 佐々木玄太郎

蝉が鳴いたと思っていたら、あっという間に夏休み終了。たくさん真夏のイベントも怒涛のように過ぎていきました。震災後から始まった子供向け映画上映会は、当初は2カ月間程度の開催の予定でしたが、多くの方にご来場いただき、土日の人気イベントの一つとして夏休み期間中も継続することになりました。物語は最初から最後まで見るのは初めてのものがほとんどで、こっそり私も楽しんでいました。

担当 大田黒翔代

【執筆者一覧】*原稿の文末にイニシャル表記

兼城昌山 (S・K) [書道家]

岩崎千夏 (C・I) [熊本市現代美術館事務局次長]

岡田直幸 (N・O) [熊本市現代美術館総務主事]

富澤治子 (H・T) [熊本市現代美術館主任学芸員]

坂本顕子 (A・S) [熊本市現代美術館主任学芸員]

丸吉ゆかり (Y・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

大田黒翔代 (K・O) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

塚本春菜 (H・Ts) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

村上綾 (A・M) [熊本市現代美術館学芸アシスタント]

ART KISS LETTER アート・キッスレター

vol.78 初秋号 (2016年9月)

【無料】

発行人: 桜井武

編集: 佐々木玄太郎 大田黒翔代

デザイン: 石井克昌 (MOTOSHIKI)

印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館

http://www.camk.or.jp

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3

電話 096-278-7500 FAX 096-359-7892

【次号は秋号(11月発行予定)】

子どもたちのためのイベントを開催しています
街なか子育てひろば

2016.6.30

「リフレッシュ親子ヨガ」



子育てワークショップは、約2ヶ月ぶりの開催。今回の内容は「リフレッシュ親子ヨガ」。講師には、ヨガインストラクターで幼児体操教室も運営されている原田理絵さんにお越しいただきました。13組の参加で会場は大にぎわい。お布団の上でできそうな簡単な親子のふれあい遊びから始まりましたが、赤ちゃんを抱え上げたり転がったりといった動きには、じわりと汗ばむ場面も…。会場ではたくさんの子どもの笑い声が上ががり、はじめの梅雨も楽しくリフレッシュしていただけたようでした! (K・O) 【参加人数25人】

2016.7.14

「パラバルーンで楽しく親子で遊ぼう」

7月の子育てひろばのワークショップは、パラバルーンを使った親子遊び。パラバルーンは、「パラスシュート」と「バルーン」に由来し



た玩具で、平たい大きな円形の布に皆で空気を取り込みながら、膨らませたりしぼませたりして遊びます。初めは、円の上に子どもたちがすわ

た。【参加人数26人】

り、お母さんたちが布の端を揺らしながら波をつくりました。波がだんだん大きくなっていくと、子どもたちは大よろこび。他にもドームのようになっている子どもたちを包み込んだり、皆で宙に飛ばしたりたくさん遊び方を楽しみました。タイミングがリズム感が遊びのコツになるパラバルーンですが、時間がたつにつれて、皆の息がぴったりになり、身体も動かしなが

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

「かえってきた!魔法の美術館」展

- 時間があっという間に過ぎるくらいとても楽しかったです。(市内10代女性)
- 大人も子どもも楽しめるようなのがほとんどで良かったし、とても満足しています。(市内10代女性)
- 楽しみに待っていました。子どもたちも大喜びです。この夏休み、あと何回か来たいと思います。(市内40代女性)
- とっても楽しかった◇◇こういう展覧会に行くことが少ないので。とても充実した♡すごい作品ばかりで不思議なやつもあって、おもしろかったです!また行きたい!(市内10代女性)

「〇〇の食卓」展

- 焼き物は、なかなか触れる機会がないと思っていましたが、思えば毎日使っているもので、ものすごく身近で大切なもので、器があってもおかずがなければ意味がないし、食べる人、誰と食べたいとか付加価値を感じる、素敵でほっこりする展示でした。(市内20代女性)

「日比野克彦 明日朝顔プロジェクト in 熊本10周年記念展」

- 日比野氏の活動とそれが地域に根付く有様を興味深く見せていただきました。(市外60代女性)

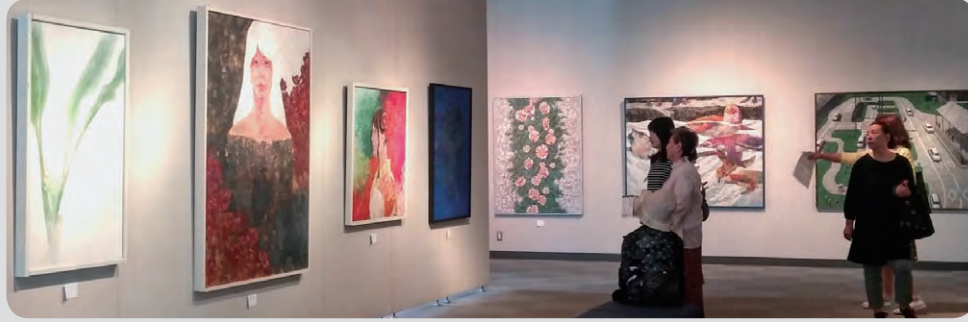
ART DE GYAN アート・どぎやん

熊本弁で「アートはどんなの?」という意味です

る音」という意味で、「いろんな人が集まり、いろんな音色をかもし出して生きていく」という気持ちで込められているそうだ。会場では、来場者が制作について作者へ質問をする姿も見られた。7月の蒸し暑い時期だったが、岩絵の具のキラキラとした輝きとともに涼やかな気持ちになった。(K・O)

「第7回 瑠璃の會」
崇城大学芸術学部
日本画コース「展」
崇城大学ギャラリー
熊本市手取本町6-1
☎096-323-1158
2016.7.12-17

崇城大学芸術学部美術学科日本画コース出身者1期生から現役学部の有志、計39名による展覧会。展示された約50点の作品は、10×200号までサイズも幅広く、夢と現実を行き来するような作品から、物の形を丁寧に追った作品まで、絵を描くエネルギーを放つ作品が並び、見応えがあった。『瑠璃』という言葉は「玉、または楽器のな



宗像裕作展「灯」

なかお画廊

熊本市東区佐土原1丁目13-2

☎096-368-9562

2016.6.25-7.3



なかお画廊 宗像裕作展

教会の様な建物や人物が画面の中にぼつりと佇んでいた。まるでろうそくの明かりが辺りを暖かく照らしているような絵画が並んでいた。光沢の少ないさらさらとした印象の絵肌だが、近づいて見ると絵の具はしっかりと抵抗感を持っている。どの作品も細部まで丁寧に描かれていて、鑑賞しているうちに心が静まっていくような感じがした。2階には、コラーージュの小品も並び、また違った一面も見ることができた。(K・O)

第35回 熊日新鋭書道展

熊本県立美術館本館

熊本市中央区二の丸2

☎096-352-2111

2016.6.21-26

若手の発掘と書の振興を目的に、熊日が毎年開催している書展である。今年も漢字やかな、少字数、篆刻作品など7部門から198点の応募があった。



熊本へ心を届けよう！
絵はがき展
長崎次郎書店
熊本市中央区新町4-1-19
☎096-326-4410
2016.7.28-8.31

熊日新鋭書道展の会員7人によって審査され、熊日新鋭賞であるグランプリ作品には篠原桂峰さん(61歳)の篆刻が選ばれた。この作品は四文字で古代中国の時代の金文で刻されていた。刀の切れ味も鋭く、変化に富み、まとも方もうまく秀作であった。今回は、熊本地震で例年より少し出品は減ったが、県下の高校性の出品が多く見られ、明るく多彩な会場となっていた。(S・K)



熊本へ心を届けよう！
絵はがき展
長崎次郎書店
熊本市中央区新町4-1-19
☎096-326-4410
2016.7.28-8.31

熊本へ心を届けよう！
絵はがき展
長崎次郎書店
熊本市中央区新町4-1-19
☎096-326-4410
2016.7.28-8.31

熊本へ心を届けよう！
絵はがき展
長崎次郎書店
熊本市中央区新町4-1-19
☎096-326-4410
2016.7.28-8.31

第44回 硯心展

熊本県立美術館分館

熊本市中央区千葉城町2-18

☎096-351-8411

2016.8.2-7

熊本大学書道部の卒業生らでつくられた書道グループ展(会長・森山淡草氏)で48名が1点

ずつ出品していた。今回は地震での体験や想いを形にした作品もあり、その努力の跡も見られる会場となっていた。昨年までの大きな会場ではないため小品となっていたが、質的には落ちていないと見えた。恩師の斉藤鶴石先生は、甲骨文の素朴な味のある線で魅せていた。米村聴雨さんの夏目漱石の句は淡墨で、用筆の自然な味わいが美しい。徳永果鶴さんの「鳳」は大文字の筆のタッチの美をうまく見せている。森山淡草さんの「無為」の篆書は、表情が楽しく、用筆のうまさが見られた。三嶋天鴻さんの「雲外蒼天」は創意のある構成で用筆の変化も見せている。賛助出品の神野大光さんは、「天地」を油絵具で書いてたり削ったりして表現が楽しい作となっていた。(S・K)



ギャラリーⅢ(GⅢ)は熊本九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ

2016.7.16-9.11

「丸尾三兄弟 マルオの食卓」展

本展は、天草の若手陶芸家・丸尾三兄弟金澤祐哉さん、宏紀さん、尚宜さんによる「ギャラリー」に来た人が、無料で器を持って帰り、「器と交換に、その人の食卓の写真を送ってもらって、ギャラリーに飾る」という展覧会です。熊本地震で多くの家庭の器が割れたことから着想された本展は、オープン初日からたくさんの方が訪れ、会場の中も日に日に

写真が増えていきました。食卓の写真を通して、日常の復興、に思いをさせて頂ければ幸いです。(A.S)

2016.7.22

アーティスト・トーク



丸尾三兄弟と、アーティストの日比野克彦さんによるトークを行いました。三兄弟と日比野さんの出会いは、2000年にスタートした「天草大陶磁器展」。天草にやってくる様々な陶芸家やアーティストの姿を見て、気付くといつの間にか三人とも焼き物の道に入っていたそうです。そういった出会いを経て生まれた、アートや陶芸の枠を超えたアイデアが、「お皿と食卓の写真を交換する」という、今回の「マルオの食卓」展にも生かされているようです。

【参加人数30人】

「マルオの食卓」展に送っていただいた写真とコメントを一部ご紹介します。



多くの方と同じように、ほとんどの食器を失くしました。自宅ではなく一時避難先で生活しています。ダイニングテーブルではなくちゃぶ台です。食器だけでなく台所用品もほとんど失くしたので、思うように料理できませんが、なんとか凌いでいます。

今回のイベントで頂いた器に、キュウリのピール漬けを。奇跡に残った丸尾焼の楕円形のお皿に、暑い日でしたのでゴーヤチャンプルを盛り付けました。質素な食卓で恥ずかしいけれど、器にこもった気持ちがとてもありがたく、なんてことないおかずも喜んでくれていると思います。



びじゅつかんでまるおやきのおちゃんをもらいました。てんじつにはいって、すぐにきにいました。おとうさんのおともだちがあまくさでつてきたてんねんまだいをさしみとあらだきとしおやきをたべました。とてもおいしかった。

ベランダ菜園で採れたミニトマトたち。素敵なお皿に盛り付けるだけで、さらにおいしそう。震災前に植えたものですが、地震にも負けずすくすく大きくなって、立派な実をたくさんつけています。こんな風に少しずつ復興へのみんなの努力が実になりますように…。

素敵なお皿、ありがとうございました。我が家のお気に入りのお皿も地震で幾つか割れてしまいました。大切にに使わせていただきます。

菊陽町在住。



実は3月まで天草に住んでいて、何度か丸尾焼の器とも出会う機会がありました。引っ越して、地震があり、また天草に避難したり…。バタバタと時間が過ぎていく中で、子どもたちも少しずつ落ち着き、日常を取り戻しつつあります。そんな、いつものご飯、です。



益城町在住。マルオさんの器を手にしたとき、ほっとするような温かさを感じ、震災後初めて、ゆっくりお茶をたててみようという気持ちになりました。静かにお茶を頂くこと、ただそれだけで日常を取り戻せたように感じます。



小さいころ母が買ってくれたクマの平皿も、旅先で買った空色の小鉢も、旦那さんが誕生日に贈ってくれた花柄の丸皿も、割れてしまった。あの揺れ以来こわくて、食器を棚に戻せなくなってしまった。また割れるかもしれないと思って、食器たちは数ヶ月間床の上に置いたままだった。

でももう元に戻そうと思う。天草から新しい食器が来てくれたことがきっかけで、そう思えた。いま食器たちは棚に戻っている。こころの復興、一歩前進。

スーパーマルオブラザーズ、ありがとう。いただいたご飯茶碗で白ご飯をもぐもぐ。